

【知ることの大切さ】

1月12日に「盲導犬 - 訪問授業」がありました。今回は初めての実施ということであったため、3年生から6年生までの全児童が参加しました。また、120名ほどの保護者の参加もありました。

ひかりホールに盲導犬と一緒に話をしてくださる方が登場すると、子どもたちの目は一斉に盲導犬集まり、これから行われる授業への関心が一気に高まったように感じました。

はじめにこの訪問授業をボランティアで行ってくれている方から、「目が見えないというのはどういうことかな？」という問いかけがありました。それに対して、「暗いということ」「視界が狭いということ」と答えた子どもたち。実際に目をつぶってみると、真っ暗ではないことに気づき、目が見えなくても光を感じることができている場合があることも理解できたようでした。約30万人の視覚障害を持つ人の中で、光を感じることができない人（全盲の人）はその約1割であり、その他の人たちは目が見えにくい人（光は感じることが出来る人）であることを知りました。また、実際に目の前に半透明のビニール袋をあててみたり、手のひらで双眼鏡を作ってみたりして、目が見えにくいことや、極端に視野が狭いことを体感できることも知りました。

視覚障害を持つ人たちがどのように日常生活を送っているかを考える際には、白杖をついて歩いたり、盲導犬と一緒に歩いたり、さらには自分を助けてくれる人と一緒に歩いたりして社会生活を送っていることを学びましたが、実際の社会には障害を持つ人たちにとって危険なことがたくさんあることも学習しました。また、盲導犬は全国にまだ1000頭ほどしかいないため、障害を持つ人の数と大きくかけはなれていることには驚いていました。その後、盲導犬がどのように視覚障害を持つ人と一緒に動くのかを実際に見ることができました。階段の前では止まり、上りの階段では一段上がって盲導犬自身の身体の向きが少し上に向くことで上りの階段であることを知らせます。さらに、人が危険な所であるにも関わらず歩き出そうとすると自分の体を人の前に出して人の動きを制止します。訓練をされた犬であるから当然なのかもしれませんが、それ以上に、盲導犬が視覚障害を持つ人のよきパートナーとなっていることに感動を覚えたようでした。

他にもいろいろな話を聞くことができました。今回の訪問授業で子どもたちはこれまで知らなかったこと、気づけなかったことがたくさんあることを知ることができました。この学習がこれからの生活のどこかで活かされることでしょう。なお、この学習は、隔年で実施し、3、4年生の段階で必ず体験できるようにしていきます。

【挑戦！「廊下を走らない」】

学校全体での取り組みでこの小学校に大きな変化があったのが、朝の会や授業に遅れる子どもがほとんどいないというものです。数分前に中休みの終わりを知らせるチャイムが鳴ると、子どもたちは各々の遊びを終わりにして教室に戻ります。以前は、「まだ大丈夫」と決め込み遊びを続ける子もいましたが、そういうこともなくなりました。桐光学園小学校はこういうことを大切にしている学校なのだという意識が、子どもたちと教員に定着しました。そして、こういうことが学校の伝統として受け継がれていくことが大切です。

さて、次の目標は、「廊下を走らない」です。自分が小学生の頃はどうかを思いながら、教員になってから何度「廊下を走ってはいけない！」と子どもたちに言ってきたでしょうか。しかし、目の前を走っている子どもに対する「走らないで！」という声かけはその場ではその子どもに届くかもしれないのですが、あくまでもその場だけのことで終わってしまうのです。

自分が目標とするところまで無意識のうちに走ってしまう、または先を争って走ってしまうのが子どもの一つの特性なのかと思いつつ、半ば諦めかけていた私の意識を変えてくれたのは、教員の一言でした。「そういう雰囲気のある学校にしたい」という強い気持ちは、私にはとても嬉しいことであり、こういう教員たちと一緒にしっかりと実現できるに違いないと思いを新たにしました。

そこで、朝会で子どもたちに、「新しい桐光学園小学校の伝統を作ってみませんか」と訴えました。子どもたちがどう感じてくれたかは分かりませんが、廊下を走ることが危険なことであったり、行儀の悪いことであったりすることが十分に理解できている子どもたちですからきっとやってくれると信じています。

【温かい気持ちに感謝】

毎朝子どもたちと会って挨拶をする度に、厳しい寒さを忘れさせてくれるような温かさを感じながら、子どもたちを元気な状態にして送り出してくださる保護者の皆さんに感謝しています。世間では、朝ごはんを食べない子ども、食べさせてもらえない子どももいると聞きます。「早寝、早起き、朝ごはん」という標語だけが一人歩きし、子どもたちの実際の生活が実はそうっていないという声もあります。この学校の子どもたちにも、「早寝、早起き」の2つについてはどうなっているのかが分かりませんが、子どもたちの元気な様子を見ると、そんな心配も必要ないのかもしれないと思われれます。個人面談では担任、副担任が保護者の皆さんといろいろな話をさせていただきましたが、それぞれのご家庭で、子どもたちがとても大切にされていることを改めて感じたという教員が多くいました。